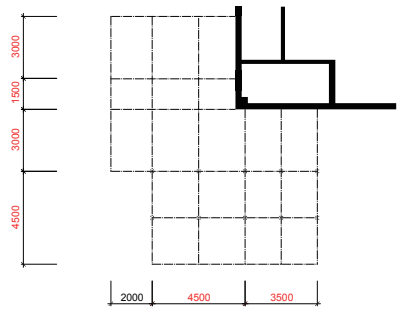
臨時建築が構成する仮設都市の可能性

日本橋恵比寿講べったら市を対象として

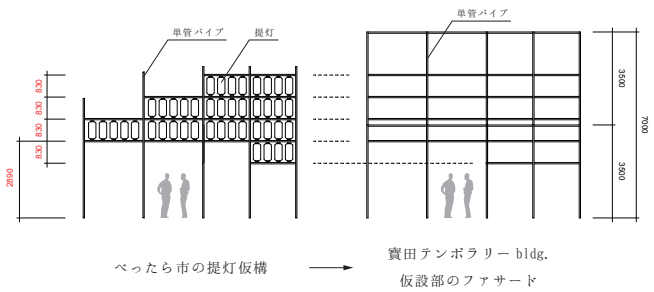
日本橋恵比寿講べったら市は大伝馬町の寶田恵比寿神社を中心に年に２日間（10/19-20）開催される市であり、江戸から 400 年の歴史を持つ。その際に単管パイプを用いた「臨時建築」が街中に広がり一時的な「仮設都市」を構成することで期間中 10 万人もの人で賑わう。一方、この地域は新たに多くのマンションが建設されると同時に、江戸から続く老舗や住宅がなくなり、住民の新陳代謝が激しい。そのためかつて呉服問屋や木綿問屋、旅籠屋街として栄えていたが、日常時は閑散とした地域となっているのが現状である。非日常時（べったら市）の「臨時建築」の展開を日常時にも応用することでかつての賑わいを地域にもたらし、「仮設都市」の可能性を示すことを目的とする。

① 仮設部作成ダイアグラム（平面）



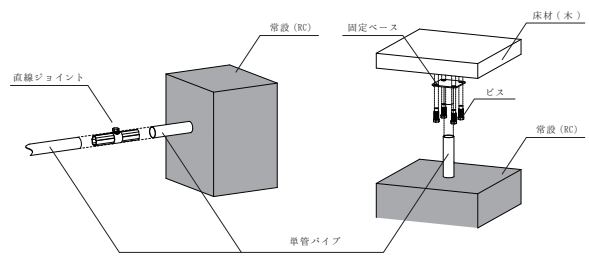
調査より 14 種の長さの単管パイプを抽出し、そのうち使用頻度の高い４種（3.5m、4.5m、5.5m、7.5m）を選定する。この４種をモジュールとして寶田テンポラリー bldg. の仮設部空間を構成する。

② 仮設部作成ダイアグラム（立面）



日常時に存在する寶田テンポラリー bldg. 仮設部のファサードは、べったら市の際に出現する提灯仮構のそれから出来ている。基本線は高さ 2890mm で、そこから 830mm 間隔で横単管が配置される。べったら市開始時には必要な単管パイプ以外を取り除き、そのまま提灯仮構として利用する。

③ 常設（RC）と仮設（単管パイプ）を接合する構法

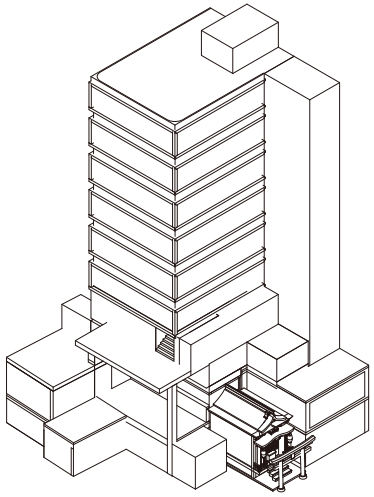


調査において、元よりコンクリートに単管パイプが埋め込まれており、そこへ直線ジョイントを介して新たな単管パイプを装着する構法が見られた。それを本提案でも採用し、寶田テンポラリー bldg. で常設と仮設の接合を実現させる。これにより、仮設都市における単管の循環を円滑なものにする。

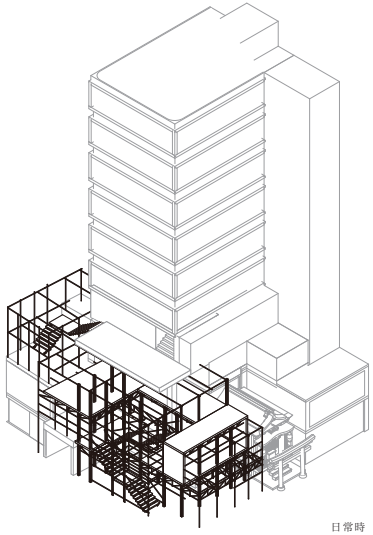
Outline 【提案の概要】

中央区日本橋旧大伝馬町（現大伝馬一之部町会と本町３丁目町会）の日常時とべったら市時（2016/10/19-20、2017/9/16-10/28のうち仮設建設・撤去期間とべったら市の開催日）とする。また臨時建築・仮設都市については、提灯を掲げるための単管仮構（以下、提灯仮構とする）等を対象とする。　本研究では、旧大伝馬町における単管の循環を用いた半永続的な仮設都市の可能性について考察している。べったら市という仮設都市の歴史があるこの地域だからこその提案であり、近年のマンション建設ラッシュによって乱れた街の景観を統一する手段の可能性の一端を示すことが出来た。またこの提案によって、江戸時代から地域を支えてきたが現在縮小しつつある「は組」の伝統を継持することで旧大伝馬町としての独自性を保つ可能性を示したい。

○提案部のアイソメ図



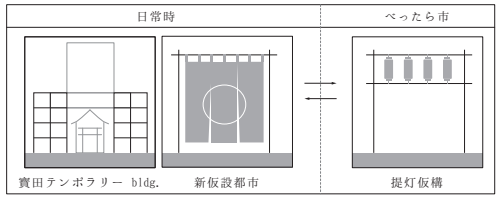
非日常時（べったら市）



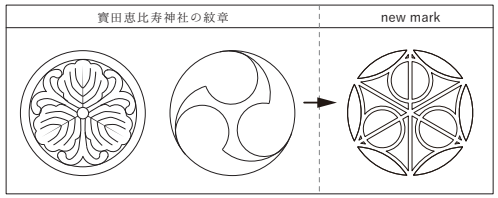
日常時

○裏参道入口

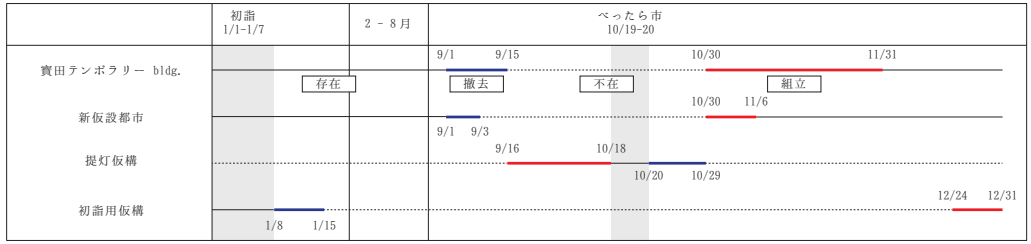
○単管循環ダイアグラム



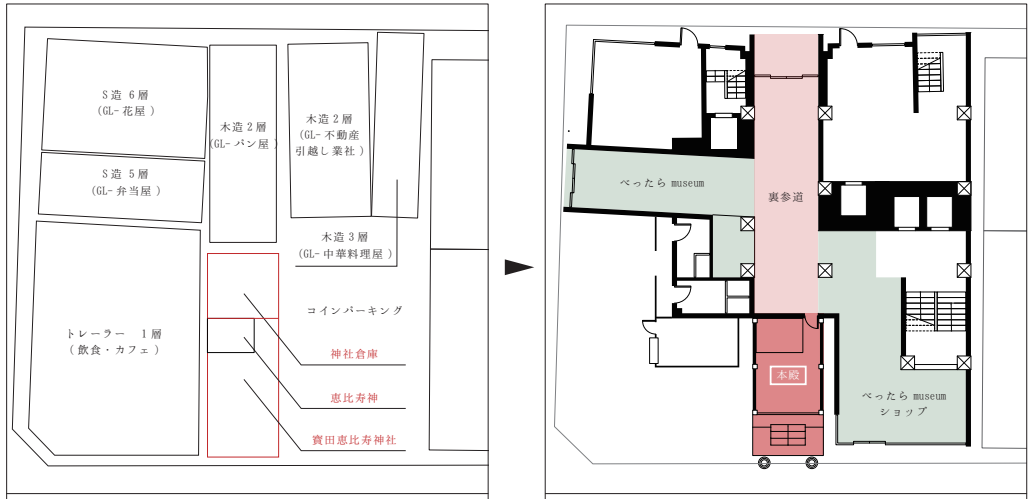
○ホテルファサード検討



○単管循環スケジュール



○常設部構成ダイアグラム



現況

提案（常設部）

常設部は現況の町割りを元に構成されている。近年はマンション等への建て代わりが激しく、提灯仮構を設置する際毎年横幅の寸法を考え直さなければならない問題があるからだ。また、この敷地は江戸の町割りが残る木造建築と、昭和に建てられたS造ビル、そして2016年竣工のトレーラーハウスという江戸～平成の歴史が混じっており、その特異性を寶田恵比寿神社を中心に未来へ継承させようとしている。神社の屋根勾配を摸した天井を北側まで伸ばし、そこを新たな「裏参道」とした。また、裏参道の両脇に「べったら museum」を配置することでべったら市と寶田恵比寿神社の歴史を展示する場を設けている。

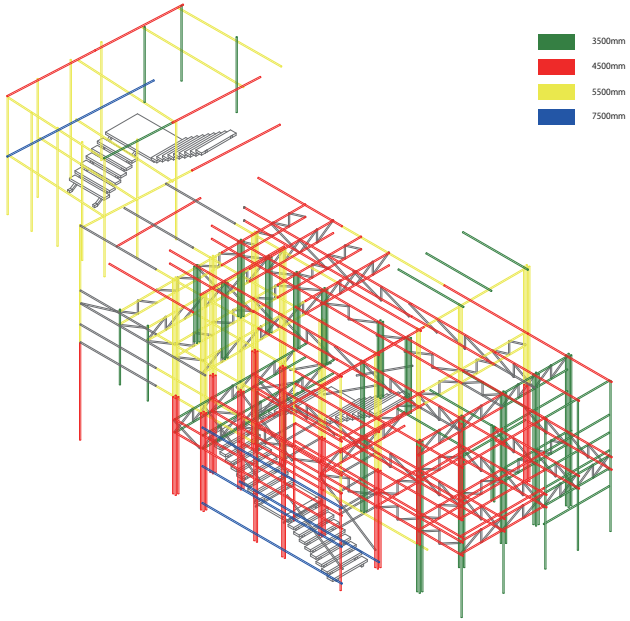
Pattern_01　【日常時】

設計対象は地域住民、観光客、オフィスワーカーとし、そのうち特に地域住民に重きをおく。地域住民が集える場、オフィスワーカーが飲食できる場を構成しつつ、ホテルを入れることで観光客を受け入れる。GL は道に対してオープンにすることで、人の集いを認知できる。神社機能を拡大し、外部に保管されている大提灯や、べったら市保存会メンバーが各自で管理している提灯（約 1400 個）等を展示・保管する場、南側 GL 階には参道に対してオープンな飲食店を設ける。敷地の町割りと周辺状況、必要な機能からボリュームを作成し、調査より選定した単管長さを割り当て調整することで空間を構成する。ジョイントも調査で抽出した構法と材を基本的に用いることで材の循環を図る。

○模型写真

○仮設部のアイソメ図

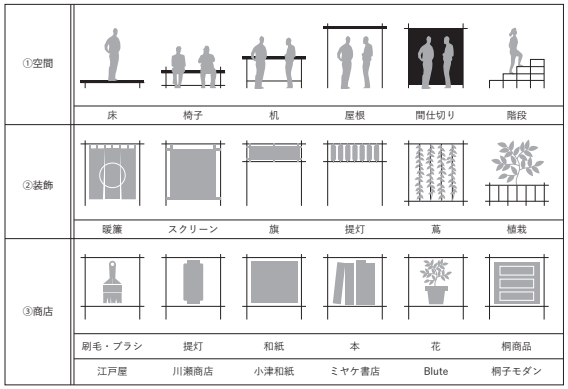
べったら市の提灯仮構より選定した単管
パイプの長さ 4 種を用いて構成している。



○ 1 階平面図

○立面図と断面図

○ 単管で構成する臨時建築の分類

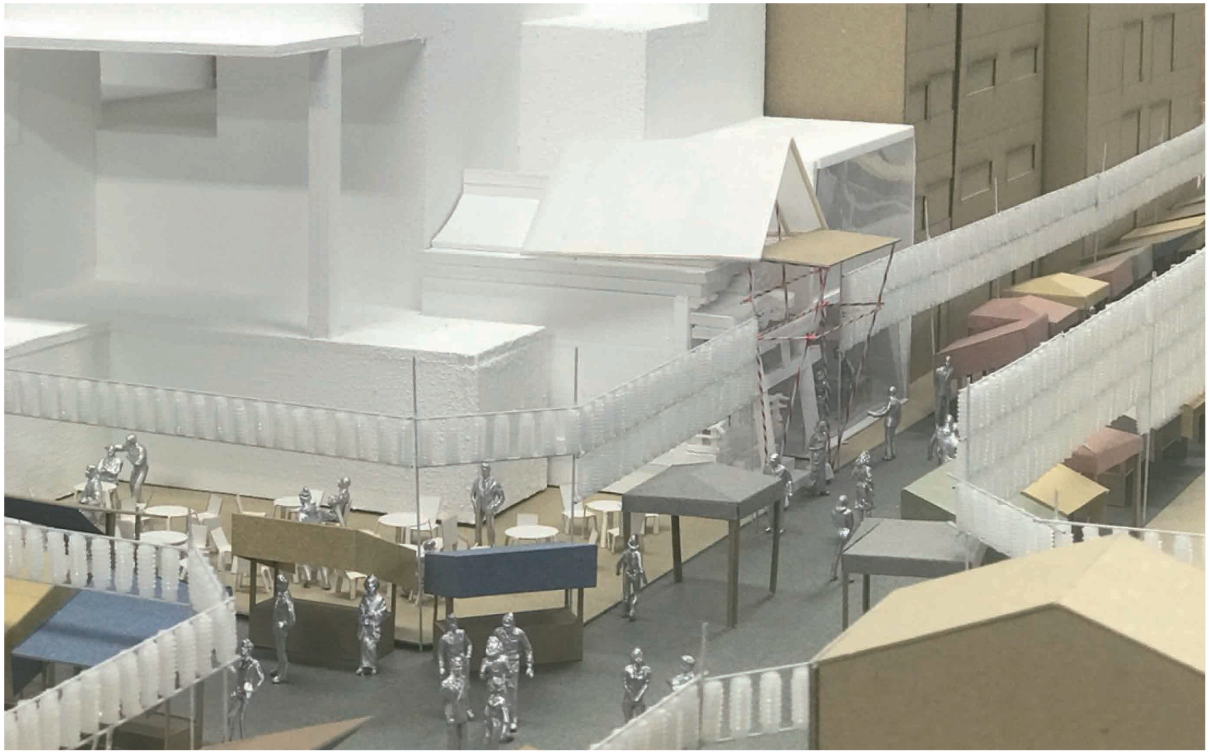


仮設都市を単管で構成する臨時建築を「①空間②装飾③商店」の 3 つに分類する。①は基本的な空間構成の要素を元に、②は街の景観統一を図る観点から、③は地域にある老舗・商店から各々の要素を選定する。これらを組み合わせて新仮設都市を構成する。

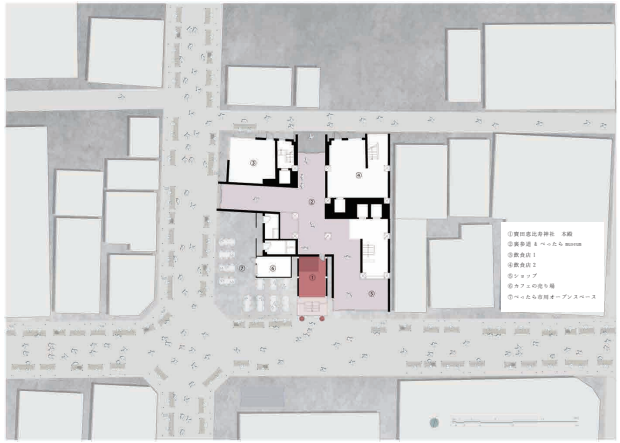
Pattern_02 【非日常時（べったら市）】

設計対象は地域住民、観光客、オフィスワーカーとし、そのうち特に観光客に重きをおく。日常時に仮設部に使われていた単管は提灯仮構に使用される。観光客の受け入れ体制を整え、より快適な市を構成する。べったら市は食事する場が少ないため、日常時の仮設部分はオープンスペースとして解放し、屋台で購入した飲食を食べる場へ変化する。集客力を高め、人の中心地を寶田テンポラリー bldg. にすることで、観光客の神社への関心を高めることを目的とする。

○模型写真



○ 1 階平面図



○立面図

○ べったら市現況